

令和3年御嵩町議会第4回定例会一般質問終了後記者会見録

※町長及び記者の発言内容については、事実誤認や単純ミスと思われる字句、重複した言葉づかい等を整理の上、発言の趣旨を損なわない程度に整理して作成しています。

1. 開催日時：令和3年12月7日（火） 16：10～16：40
2. 開催場所：役場本庁舎2階 第1委員会室
3. 出席者：渡邊町長、各務総務部長、中井企画調整担当参事、小木曾民生部長、鍵谷建設部長、山田企画課長、澤田秘書広報係長

4. 記者会見概要

山田課長

それではお疲れ様です。本日の一般質問の答弁につきまして、このような場を設定させていただきましたので、よろしくお願ひします。この時間は30分程度とさせていただきます。また、この内容は町ホームページで後日公開いたしますので、ご理解くださいますようお願いいたします。それでははじめに、町長よりあいさつを申し上げます。

渡邊町長

お集りいただきありがとうございます。一般質問の答弁については、皆さん聞いておられたことですので、その中からもう少し深く、聞かれたことについて真摯に答えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

山田課長

それでは早速ですが、ご質問をお受けします。初めに、岐阜新聞さん、お願ひします。

岐阜新聞

町長どうもお疲れ様でした。今回は会見まで開いていただきありがとうございます。リニアの件で、先ほどの答弁の中で分からないことがあったので教えて頂きたいのですが、途中で「美佐野工区から排出されたものをどうするかということだけを考へている」というご答弁が確かあったと思います。前段・後段の話から考へると、2つの解釈ができて、そのご答弁の意図を教へていただきたいです。取り方によっては、美佐野工区から排出された、要するに土だけをどうするかということだけを考へているということは、他の市町村とか他県から出ているものを持ち込ませないという意味合いにも取れますし、それと逆に、もし他の所で受け入れられる所があれば、そこら辺は積極的に動いて行きたいというような発

言にも取れますし、その辺りの解釈をどのようにしたらいいのかを教えてください。

渡邊町長

美佐野工区というのは、東の方は瑞浪市が、そして西の方は、可児市も含まれます。同じ工区地から土が出てくるわけですので、そこから出てくるものということで、御嵩町の土だけだということにしてしまうと、その瑞浪の分・可児の分は持ち出さなければいけないという話になりますので、工区から出たものに限定しますよという話です。外に持ち出すということができるのであれば、多分受け入れ側が存在しての話だとは思いますが、私が首長ならそういうものは多分引き受けないと思いますので、現実的な話かといえば、そう現実的な話ではないというふうに思っています。

ただ、J R東海側には、度々いろいろな質問が出る中で、駄目だったらどうするんだという話になって、その時には持ち出ししますというようなことも言いますので、それなら場所がきちっと決まっているなら持ち出してくれ、というのは常に言い続けたい。全量を7～8年かけて掘るわけですから、途中で見つかったというなら途中からでも運び出してくれということは可能になるかと思しますので、そのような対応をしていきたいと思っています。

岐阜新聞

ありがとうございます。もう1点教えてください。そのあとに、例の専門家の話、専門家の根拠の話があったかと思いますが、多分そのご答弁だったと思いますが、何らかの組織、審議会をつくるというご発言があったかと思えます。ごめんなさい。そこが少し聞き取りづらくて、もう少し詳しく教えていただけないでしょうか。

渡邊町長

これから受け入れを前提として協議をしていくということは、安全であり安心してもらえるようしなければいけないと考えています。やはり、科学技術の世界に絶対はないということは、私自身が使いたい言葉ではありませんので、今ある最高の安全策を講じるという意味で、私たちが気付いている部分と、まだまだ知らない世界というのはあると思いますから、専門家にお聞きしながら、逆にJ R東海のいわゆる工事を請け負う側ではなく、工事を担当している側に対して、専門的な知識を持っているわけですから、そしたら我々も専門家の話を聞きながら、何を確認すべきかを教えてもらいながらにした方が、安全性が高くなるんじゃないかということを考えています。

岐阜新聞

確認ですが、その審議会というのは、町を主体にして、専門家を交えてつくるものということでしょうか。

渡邊町長

先ほども言ったように、受け入れを前提としてということをおっしゃるので、受け入れるとしたら、どういう安全対策が必要になるかというのを、本当の専門家にお伺いしながら、これで今の技術としては最高レベルだと言っていただけるような交渉を、J R東海としていく。そのために、勉強しながら専門家会みたいなのを開いていきたい。先生をどなたにするかというのは、当然私が意見を聞いたのは、J R東海の工事に直接関わっていない専門家に話を聞いたので、そういう方に客観的に見てもらって、御嵩町へアドバイスをいただけるというような形のものを設置していきたいと思っています。

岐阜新聞

町の方が専門家に依頼というか呼びかけをして、アドバイスをいただく組織ということですね。

渡邊町長

そうです。町が予算組みをした上で、そういう先生方の意見をいただくのにも経費がかかるでしょうから、そういうのも負担しながら対応していきたいと思っています。

朝日新聞

関連でお尋ねしたいのですが、それは何人くらいの会になるのか、それから会の名称が決まっていれば教えていただきたいと思っています。

渡邊町長

まだそれは具体的には決まっていません。年明けぐらいから話をさせていただいて、受けただけの方にお集まり願うと。専門家としては3～4人、あとは行政側の担当の方、もし議会代表で出していただけるならそれでもいいかなとは思っていますけれど、これから考えます。

朝日新聞

確認ですが、専門家は何の専門家と呼ばばよろしいでしょうか。

渡邊町長

まず地盤工学、それから環境学、水環境学と。私が意見を聞いたのはその3人ですので、それが理想的かなと思っています。

朝日新聞

いつ頃に発足するかというのは、お考えがもしあれば。

渡邊町長

令和3年度中に、そういう交渉をしながら確定させたいと思いますので、令和4年度から始めていったらどうかと思っています。

岐阜新聞

町のオフィシャルの組織ということでいいですか。町長の私的な諮問機関というのがあると思いますが、私的じゃなくオフィシャルのものですか。

渡邊町長

オフィシャルにした方がいいと思っています。先生方にもよりますけれど、公開の部分があってもいいかなと思っています。

岐阜新聞

前回、町長ご自身が分野の専門家の方に話を聞いてらっしゃったと思うんですけど、同じ方を想定されていますか。

渡邊町長

かなりの方ですので、同じでもいいかなとは思っています。

岐阜新聞

承知しました。ありがとうございます。

渡邊町長

先生によっては嫌がる方もみえるかもしれませんので、そこは交渉だと思います。

朝日新聞

その会は審議会としていいのか、何か言い方があるならば、記事を書くときの関係で伺いたいのですが。

渡邊町長

まだそこまで、名称とか、イメージは無いんですけど、受け入れを前提にということをお願いしていますので、その前提として何が確約として必要なのか、安全対策として必要なのかということをおアドバイスをしていただけるような方々ということになるかと思っていますので、審議会がいいのか、何らかの別の名称がいいのかは、これから考えていきたいと思っています。

朝日新聞

つまりそれは、審議会という言葉を使わないとするならば、そういう専門家の組織をつくるという言い方をすればよろしいでしょうか。相談できる。

渡邊町長

J R東海に対しての交渉の組織、安全対策に対しての交渉の組織をつくりたいと私は思っています。

朝日新聞

交渉というのは。

渡邊町長

安全対策です。より一層の。申し上げているように、現代の科学技術で最高レベルのもの。それを求めていきたいと思っていますので、そのアドバイスをいただけるような。それはもう余分なことだよと言われることもあるかもしれませんが、これなら100%大丈夫ということも多分ないだろうと思います。限りなく100%に近い数字を出していけるような、そんなアドバイスをいただいていくということになるかと思っています。

朝日新聞

あとこれは念のためですが、J R東海さんはこれに関わるのでしょうか。あるいは一切排除するのか。

渡邊町長

質疑応答のようなものではJ R東海に来てもらう以外無いと思いますけれど、それはJ R東海に関係のない組織にしていかないと、信頼性が薄くなってしまうと思いますので、御嵩町として、御嵩町の主催でおこなっていきたいと思います。

朝日新聞

場合によっては、J R東海さんに関わってもらうということですね。

渡邊町長

そうですね。受け入れを前提としてこれはどうなんだというのは、専門家でないと言えないこともあるかもしれませんが、会の方に出席を依頼するということもあるでしょうし、公開でやるとしたら多分J R東海も気になるでしょうから、来るのではないかなとは思っています。

岐阜新聞

次々とすいません。もう一つごめんなさい。今の交渉の話のところの一つ教えてください。J R東海との交渉の組織だと。それで内容は安全対策だと。交渉ということは、つまりその組織自体が、そういう公開の場ないし公開じゃない場で、時にはJ R東海さんと呼んで、直接J R東海さんと専門家の方が、要するに専門分野の話をし、協議をするという場面がある、あり得るということなんですか。それともその、そこで町はあくまでもアドバイスをもらって、それをJ R東海さんにきちっとお伝えすると。そのアドバイスをもらう組織なのか、時には交渉に出てってもらう可能性もあるという組織なのか、そこら辺によって組織の強弱がかなり変わりますが、そこについてはどのように解釈したらいいでしょうか。

渡邊町長

先生方を探すのも、どちらかという苦勞したと。J R東海の事業に関係していない方にアドバイスをいただかないと駄目だろうというのは私自身の中にありましたので、そういう方を選ばせていただいた、そして話を聞いてきたと。そうした審議会のようなものをつくるとしたら、その先生方がJ R東海との交渉の場に立ち会ってもいいよというようなことを言っていただけなのか、学問の世界は分かりませんので、どこでどう付き合いがあるか私は知りませんので、その時による、その方による、というふうに思っています。

中日新聞

交渉のための組織に関しては、専門家3～4人、行政側の担当者、議会の代表といった方を想定しているという話だったと思うんですけども、先ほどの岡本議員からの質問の中で、メンバーの中に町民の代表を入れるのはどうかという話もありました。先ほど町長がおっしゃったように、公開の部分があってもいいと思っているということは、あくまでも町民はオブザーバーじゃないですけども、その話し合いの様子を見る立場で、実際のその交渉のメンバーに入るといったことは想定していないという理解でよろしいでしょうか。

渡邊町長

適切な人がおられるのであれば、入っていただくことは当然のことだと思います。ただ、受け入れを前提にと先ほどから言っているように、最初から拒否のような方々は、声をかけても多分その会には入って来られないと思います。より良いものにしていくために交渉していくわけですので、当然受け入れを前提として考えていただける方、ということになるかと思います。専門家というのは、話を聞いてよく分かったのですが、拒否するとしたらそんな学問は必要ないですよ。学問として追及しておられるのは、いかに安全にするかということの研究してみえるわけですので、当然そうした方々の意見は、実際に処分しなければならぬとしたら、今ある一番安全なものということを提示していただける方にしなければならぬと思っています。

中日新聞

こちらの組織は、どれくらいの頻度で開いていかれる予定でしょうか。

渡邊町長

学者の方々の多忙さというのを私は知りませんので、相談しながらにはなりますけれど、適宜、なるべく手厚くやっていきたいと思っています。

朝日新聞

審議会の座長は町長と考えてよろしいでしょうか。町長主催と考えた方がいいのか、町長はここに入るのか入らないのか、というのはどうでしょうか。

渡邊町長

担当者に入らせようということは思っています。私は常に傍聴しているというのが望ましいのではないかと思っています。

岐阜新聞

町長は傍聴されるということは、常にそこに、その場にいるということですよ。やり取りは把握されるということですよ。

渡邊町長

当然そうです。私自身の知識も深めなければいけないので、そういうことは当然だと思います。

フリー

先ほど町外への持ち出しの話もありました。これはJ R東海に対して、正式にそういったことも検討してくれという話は町からはされているのでしょうか。

渡邊町長

9月9日、受け入れを前提に協議に入ると申し上げてから、実はそれほど会議をやっていないんです。こちらの知識もまだまだでしょうけど、J R東海さんはほっとしているだけの話で、ここどうしましょうという話は、まだ私の所へは来ていませんので、のんびりしているのかどうなのか、他にやらなければいけないことがあるのかどうなのかも私自身は分かりませんので、こちらから協議しようかという話でもないだろうと思っていますので、そうした部分について先ほど申し上げたように、100年経たなくても安全にする技術ができるかもしれないじゃないかと。研究をJ R東海がやったら？ということは、その1点だけは申し上げたことはありますけれど、それ以上のことは何も、話し合いの場はできていません。

フリー

その持ち出しの話もこれからされて、かたや受け入れを前提とした審議会も作られるというのは、はたから見ると矛盾しているような気がします。結局、J R東海さんとしては先ほど町長がおっしゃったようにほっとして、本気で町外を探さなくなるのではないのでしょうか。ですから交渉としては町外に持ち出すということは、まずなくなるのではないのでしょうか。そういうふうに見えてしまうんですけども、どうでしょうか。

渡邊町長

どこへ、どれくらい持ち出したのか分からない。多分、御嵩町が聞いてもそれは答えてももらえないと思いますし、瑞浪市さんに聞いても分からないと、教えてもらえないだろうと思います。受け入れ側の都合なのか、出した側の都合なのか、私もそれは分かりません。その情報は、私自身は、先般の小学校の体育館でやった時に初めて聞きましたんで、ただ瑞浪市長のおっしゃることを聞いていると、その量というのは大した量じゃなかったというようなことだろうと思います。まだまだ行き場を探してくれということをおっしゃっていますので。それくらいしか私には情報がありません。現実的に考えていったら、先ほど言ったように、私が首長なら、愛知県の方に聞いてですけれど、もろ手を挙げて賛成で、来てくれ来てくれというふうで受け入れというのはしないだろうなど。何か理由があって、持ち出したものを埋めてもいいよというのがあったのかもしれない、というくらいしか想像できませんので、それ以上は知る由もありません。

フリー

繰り返しになりますが、その持ち出しについて、御嵩町さんは本気じゃないなというふうにJ R東海さんにはとられるのではないのでしょうか。受け入れを前提に専門家の意見を聞いていくわけですよ。

渡邊町長

先ほど申したように、掘り出しが来年か再来年か分かりませんが、いきなり出てくるのかどうかもわかりませんが、年数をかけてやるものですから、逆に言えば全量そこで処分するという必要も、受け手があれば無くなる、その時点で止めればよいと思いますので、これはもう掘り終わるまで言い続けなければいけなかなと思っています。ただ、現実的に考えると、仮置きであったとしてもどこかに置かなければいけないとしたら、それはもう御嵩町がJ R東海が一番理想でしょうし、現実的であろうと思いますので、そういうことに期成同盟会の一員として協力しなければいけないという、何とか切迫感みたいなものもあったのは事実でありますけれど、よりよい行動を模索していくというのは当然これからもずっと続けていくというふうに思います。

フリー

先日の住民説明会も拝見したんですけども、やっぱり住民が、受け入れ前提で協議していくことについて、到底納得しているという雰囲気ではなかったですよ。その中で受け入れを前提に専門家の意見を聞くというのは、ちょっと一足飛びにいきすぎているような気がします。それよりも前に、例えば町長が意見を聞いた専門家の方に町民に説明してもらおうとか、そういう何らかの住民理解の場を設けるご予定というのではないのでしょうか。

渡邊町長

こういうことの難しさというのは、住民感情で情緒的な話になってしまうと、無い方がいいに決まっている、ということだと思います。じゃあ歩み寄りができるのかというと、なかなか歩み寄りは難しいというのが、私の経験上、そういうことが言えるのではないのかなと思います。正直言います、J R東海の土が反対だとはっきり言っている人もいないし、J R東海の事業そのものが反対だと言う人も、私は直接聞いたことがないですよ。心配だ心配だと議会の答弁でも言われますので、以前、岡本議員に聞いたこともあるんです。うちは反問権が許されているので、「今日は岡本議員の反対宣言の日ですか。」と聞いたら、慌てられて何言っているか分からない答弁をしちゃったと。何でかなというふうに思うこともあるんですけども、そのくらい微妙で、ああいうところに足を運んだ方はどちらかということ、嫌だ、という派の方かなと。足を運ばない方々は、まあ仕方がないかなと思っている方々。その何らかの思いが常に交錯している、そういうのが今回のテーマかなと思っています。

フリー

そういった説明の場は、今後の説明の場というのは、設ける予定は具体的にはないということですね。住民にさらに、専門家さんに来てもらって説明したりとか、そういう場を設ける予定は無いということですか。

渡邊町長

この事業は、私はJ R東海の責任だと思っています。排出者責任というのがあるわけですから、理解をしていただきたいと努力するのはJ R東海の方であって、御嵩町は受け入れに向けて協議を始めますということを使うものの、迷惑であることは事実ですから、それは私どもが説得するよりも、事業をおこなっているJ R東海の方が、技術面でも知識があるでしょうし、処分をしなければいけないという、そういう使命感みたいなものがJ R側にあると思いますので、J Rがもっと努力すべきだと私は思っています。

山田課長

他によろしかったでしょうか。それではこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。

(16:40終了)